2011 年度の北大小児科年報の発刊にあたって

2011 年度の北大小児科の年報の発刊にあたり、一言ご挨拶させていただきます。今年で北大小児科年報の発刊は 8 回目となります。北大小児科の歩みとして今後も発刊を続けていくつもりですが、今回の内容はどうでしょうか。

先日、2012 年度の医学生理学部門のノーベル賞が発表され、京都大学の山中伸哉教授が受賞されました。現在展開されている iPS 細胞研究がこれまでの常識を覆す発見であり、その発展性、将来性を考えると論文発表から受賞までの期間が速すぎるとの論評もありますが、今回の受賞は当然だと思いました。受賞を契機として山中教授の様々な事が一斉に報道されましたが、改めて大きな功績の陰には、挫折あり、超人的な努力あり、また、天賦の才があるのだと感じます。日本人としてこの受賞を大変誇に思うとともに、私たちは、私たちなりに形のある物を着実に残す事が重要だと再認識しています。

さて、お手元の北大小児科年報を時間のある時に是非、ご覧になって下さい。自らの一年を振り返ってほしいと思います。全体を俯瞰したとき、北大小児科が確実に発展していると評価できる様な年報になっているでしょうか？思えられれば良し、そうでなければ、否、そうであっても、今後もよりいっそう努力し、一致団結して頑張りたいものです。そういう意味でもできれば批判的に見てほしいと思っています。

北海道大学大学院医学研究科 医学専攻

生殖・発達医学講座 小児科学分野　教授　　有賀　　正